

令和4年度 地域課題解決に取り組む高校生サミット

本取組は前号のワークショップに引き続き、令和3年度 SSH 科学技術人材育成重点枠指定を受けて、本校にて11/20(日)に実施されました。県内外の22校より約110名の生徒が来校し、また、4校はオンライン形式で、地域環境に関する研究や調査のポスター発表および海や山の環境についてのディスカッション(表1)、およびディスカッション内容の報告会を行いました。本取組を通して、自然環境を維持する上での人為的な管理の必要性等について話し合いました。

表 ディスカッションの論題

- ・里山・里海とは？皆さんの地域の例を挙げてみましょう。
- ・人が、山・海に手を加えることの影響は？(プラス面、マイナス面)
- ・自然環境と人間社会の関係性は？(因果関係、相関関係)

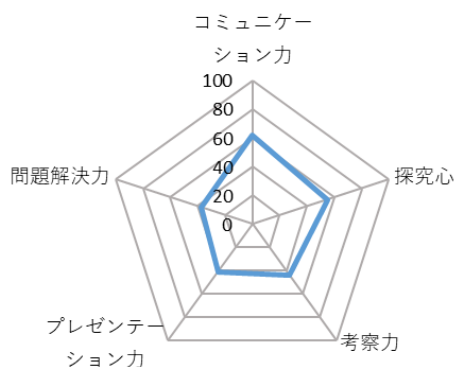


図1 グラフ：「今回の企画において、どのような力が身についたと思いますか。(複数可)」のアンケート結果(値は回答者の割合(%)、回答者数105)。10項目(探究心,分析力,応用力,考察力,問題解決力,独創性,コミュニケーション力,文章力,企画力,プレゼンテーション力,分野俯瞰力)のうち、上位5項目を抜粋。/写真：活動の様子。

高大連携フォーラム in 京都大学

12/24(土) 京都大学にて、前号のワークショップおよび上述の高校性サミットのまとめとして、本取組が実施されました。県内外の8校から約60名の生徒が参加し、地域環境に関する研究や調査のポスター発表およびワークショップや高校性サミットの振り返りについてディスカッションをしました。ポスター発表では京都大学の学生方や先生方あわせて約30名に聴衆として参加して頂き、研究や発表についてのアドバイスを頂きました。ディスカッションでは里海や里山の環境と人間のかかわり方について、自分達が学んだことを整理し、周りに伝えたいこと等を共有できたようです。



右図2 ポスター発表の様子